

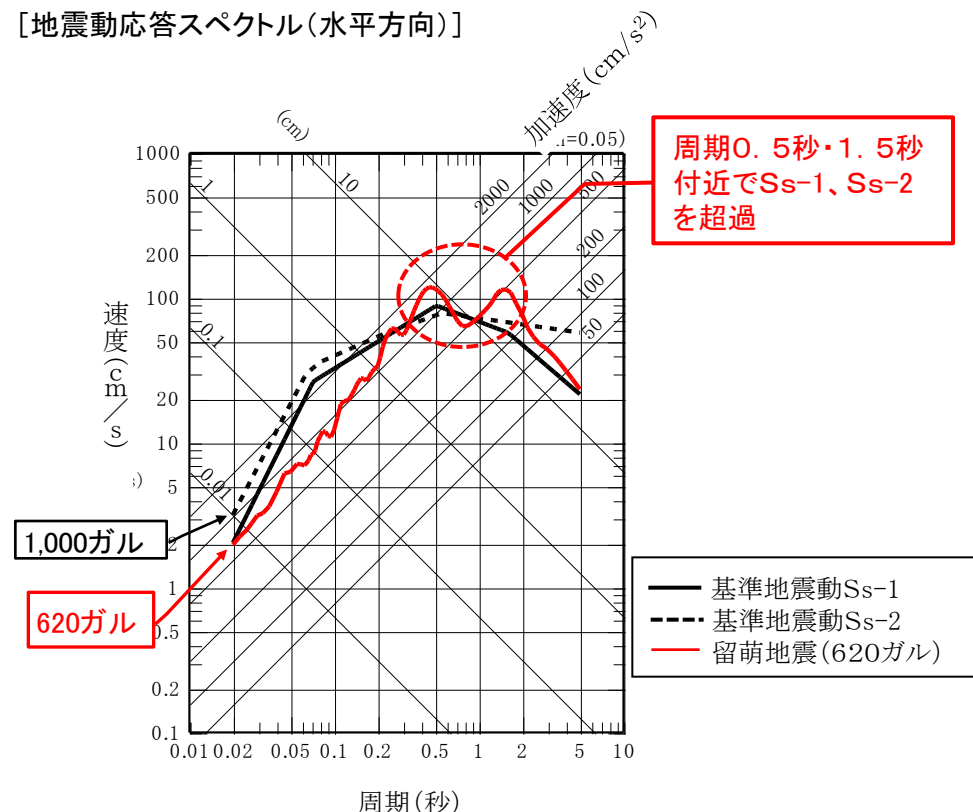
女川原子力発電所2号機 新規制基準適合性審査における基準地震動の追加評価について

- ❑ 女川原子力発電所2号機の新規制基準適合性審査申請においては、2011年東北地方太平洋沖地震等での知見を踏まえ、耐震設計の基準となる地震動(基準地震動)について「**Ss-1(640ガル)**」および「**Ss-2(1,000ガル)**」を設定し、現在、原子力規制委員会の審査においてその妥当性が審議されているところです。
- ❑ このうち、「震源を特定せず策定する地震動」については、「2004年北海道留萌支庁南部地震」を考慮することとし、平成25年に電力中央研究所より報告された中間報告の知見に基づき評価をすることとしました。「**2004年北海道留萌支庁南部地震**」を考慮して評価した地震動は、**最大加速度で620ガルとなります**。また、この地震動は、基準地震動Ss-1およびSs-2を一部の周期帯で上回るものです。
- ❑ なお、今回の追加評価による発電所の設備への影響はないものと考えておりますが、今後、詳細な評価を実施することとしております。

【地震動の評価】

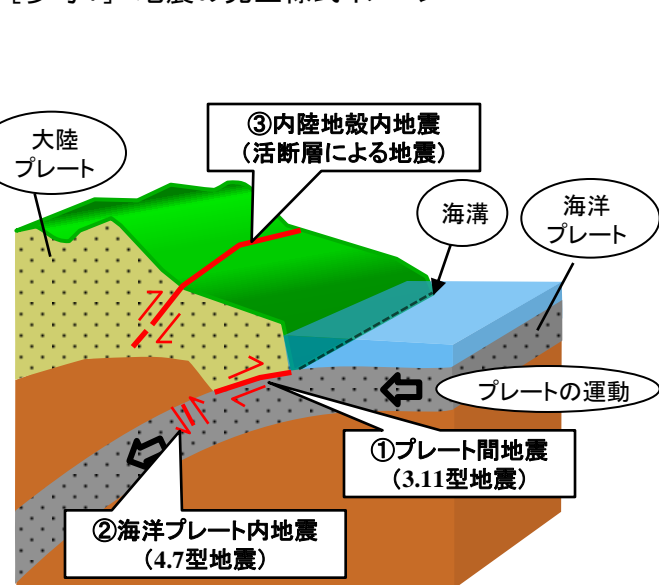
		適合性審査申請時の評価		追加検討の状況(審査中)	
震源を特定して策定する地震動	①プレート間地震	2011年東北地方太平洋沖型地震(3.11型地震)を考慮	基準地震動Ss-1 <b>640ガル</b>	左記地震について断層モデルによる評価を実施	基準地震動Ss-1 <b>640ガル</b>  新たな地震動(3/4公表済み) <b>717ガル</b>
	②海洋プレート内地震	2011年4月7日宮城県沖型地震(4.7型地震)を考慮	基準地震動Ss-2 <b>1,000ガル</b>	左記地震について詳細評価中	基準地震動Ss-2 <b>1,000ガル</b>
	③内陸地殻内地震	F-6断層～F-9断層による地震を考慮		左記地震および仙台湾の断層群による地震を考慮	
震源を特定せず策定する地震動*		従来の知見(450ガル)		留萌地震を考慮	新たな地震動 <b>620ガル</b>

[地震動応答スペクトル(水平方向)]

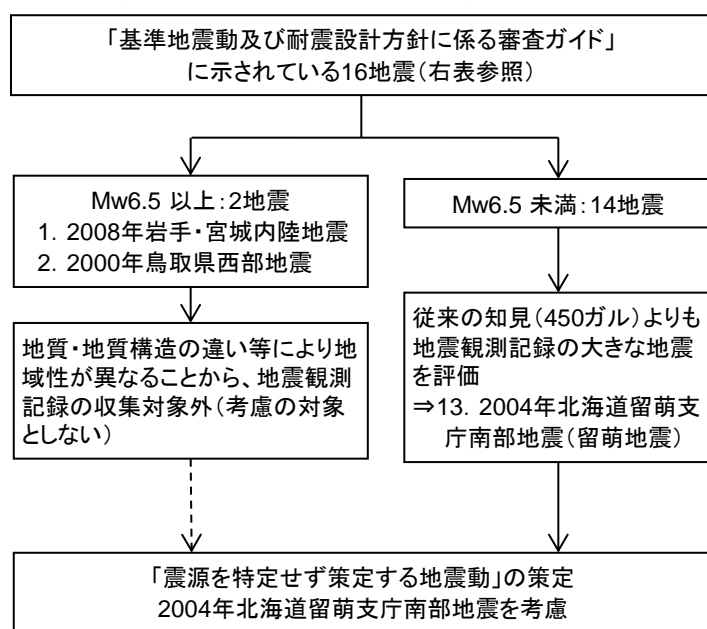


注:表中の加速度は、すべて水平方向の加速度  
 ※:震源と活断層を関連付けることが困難な過去の内陸地殻内の地震による地震動

[参考1] 地震の発生様式イメージ



[参考2] 震源を特定せず策定する地震動の策定フロー



【評価の概要】

震源と活断層を関連付けることが困難な過去の地震(16地震)について、審査ガイドに基づき、以下のとおり評価

- Mw6.5以上の地震(2地震)  
※断層の長さが短く、地震規模が推定できない地震
- 2地震が発生した地域と女川の敷地とで同様の地域性があるかを評価  
⇒地質・地質構造の違い等により地域性が異なるため、地震観測記録の収集対象外(考慮の対象としない)
- Mw6.5未満の地震(14地震)  
※断層の長さも、地震の規模も推定できない地震
- 適合性審査申請時に考慮した知見(450ガル)よりも、地震観測記録の大きな地震を評価  
⇒留萌地震を考慮

NO.	地震名	規模Mw
1	2008年岩手・宮城内陸地震	6.9
2	2000年鳥取県西部地震	6.6
3	2011年長野県北部地震	6.2
4	1997年3月鹿児島県北西部地震	6.1
5	2003年宮城県北部地震	6.1
6	1996年宮城県北部(鬼首)地震	6.0
7	1997年5月鹿児島県北西部地震	6.0
8	1998年岩手県内陸北部地震	5.9
9	2011年静岡県東部地震	5.9
10	1997年山口県北部地震	5.8
11	2011年茨城県北部地震	5.8
12	2013年栃木県北部地震	5.8
13	2004年北海道留萌支庁南部地震	5.7
14	2005年福岡県西方沖地震の最大余震	5.4
15	2012年茨城県北部地震	5.2
16	2011年和歌山県北部地震	5.0

※審査ガイドでは、上記16地震について、検討の対象として評価することとされている。